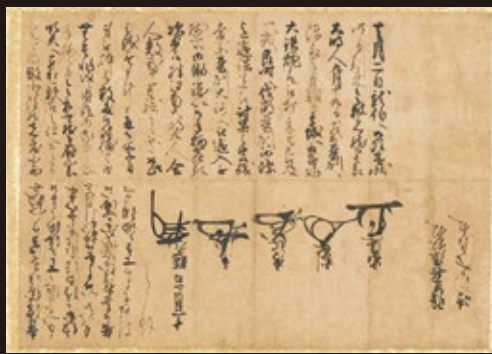




紺系威紫白肩裾胴丸大袖付
(重要文化財／都城島津邸蔵)



豊臣五大老連署状(慶長三年)十一月二日
義弘・家久宛(島津家文書)(国宝／東京大学史料編纂所蔵)



佐敷城跡出土「天下泰平」銘鬼瓦
(熊本県重要文化財／
芦北町教育委員会蔵)

島津氏分国太閤検地尺(重要文化財／尚古集成館蔵)

鬼島津 が遺したものの



虎頭骨
(付属器木製枕)
(鹿児島市教育委員会蔵)



肩衝茶入(十五代沈壽官氏蔵)



白釉蓮葉文茶碗(豎野系)
(鹿児島県歴史・美術センター黎明館蔵)



小西行長等連署制札
(新田神社文書)
(重要文化財／新田神社蔵
薩摩川内市川内歴史資料館寄託)



刀無銘号朝鮮兼光(始良市指定文化財／個人蔵 鹿児島県歴史・美術センター黎明館寄託)



JR伊集院駅前 島津義弘公像

島津氏は九州統一目前にして、豊臣軍に敗れ、豊臣臣下としての道を歩みます。秀吉の分国策によって事実上分裂状態となった島津氏の中で、積極的に重い役務にあたることで、一族の存続を図ったのが島津義弘です。義弘は、名護屋城の普請にも積極的に関わり、文禄・慶長の役では朝鮮各地を転戦しました。特に朝鮮半島からの撤退戦においては、家康ら大老達から感状が送られるなど、大きな武功を挙げたことから、江戸時代の日本では、「鬼島津」というイメージが定着しました。

佐賀県立名護屋城博物館では、平成28(2016)年度から特別史跡名護屋城跡並びに陣跡保存整備事業の一環として島津義弘陣跡の発掘調査を行っています。調査では、石垣・玉石敷・虎口空間など陣跡の構造や在陣生活の一端を示す多くの手がかりが確認されました。

本企画展では、最新の発掘調査成果を発表することとあわせて、島津義弘の名護屋在陣前後の様々な史資料を紹介することで、新たな魅力を明らかにし、その動向を通して文禄・慶長の役や肥前名護屋の実像に迫ります。

[出品協力] 始良市教育委員会、始良市歴史民俗資料館、芦北町教育委員会、鹿児島県立図書館、鹿児島県歴史・美術センター黎明館、鹿児島市立美術館、鹿児島神宮、薩摩川内市川内歴史資料館、十五代沈壽官、尚古集成館、東京大学史料編纂所、京都市考古資料館、宮崎県立日南高等学校、日南市教育委員会、新田神社、日置市教育委員会、都城島津邸、湧水町教育委員会(順不同)



佐賀県立名護屋城博物館までのアクセス

【公共交通機関】

唐津大手口バスセンターもしくはJR西唐津駅から
昭和バスで約40分、「名護屋城博物館入口」下車、徒歩5分

【自動車】

<福岡方面から>
西九州自動車道唐津ICから約40分

<佐賀方面から>
長崎自動車道・多久ICから約70分

佐賀県立博物館50周年特別展 THIS IS SAGA -2つの海が世界とつなぎ、佐賀をつくった-



佐賀県立博物館
SAGA PREFECTURAL MUSEUM

■会期／令和2年9月18日(金)～11月3日(火・祝)
■会場／佐賀県立博物館 ■観覧料／一般800円

※高校生以下、障害者手帳又は指定難病医療受給者証の所得者とその介助者1名は無料